

学年	高校 3 年	教科	数学科	科目	数学演習	単位数	4
教科書名 (主教材名)		数学 C (数研出版) キートレーニング数学演習 I ・ II ・ A ・ B ・ C (数研出版)		副教材名	サクシード 数学 I +A (数研出版) サクシード 数学 II +B (数研出版) サクシード 数学 III +C (数研出版)		
コース・クラス		選抜理系					

I. 目標

数学の基本的な原理や法則を理解させ、知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を育てる。日本大学基礎学力到達度テストで必要な数学 I A II C の基本事項を学び、日本大学基礎学力到達度テストの得点率 8 割を目標とする。

II. 授業のねらい

数学 C

3 章 複素数平面 … 複素数が座標平面上の点と対応することを理解させ、複素数を図示できるようにする。
また、複素数の極形式について理解させ、複素数を用いて図形に関する等式や性質を証明できる。

数学 I A II

基本事項をしっかり理解し、知識を整理するとともに、総合的に数学を解く力を身につける。その時々で問題を解く時間を設定し、日本大学基礎学力到達度テストをイメージさせる。

III. 授業の進め方

1. 教科書と問題集を中心とした授業を展開する。難関私立大学理系学部一般選抜に必要な知識・技能を補足して扱う。
2. 定期的に小テストを実施し、定着の度合いを図る。
3. 状況に応じて、理系大学過去問等を使用する。

IV. 学習上の留意点

1. テキスト、授業用ノートを用意して授業に臨むこと。
2. 定期試験の返却後、間違えた問題を確認し、復習を行うこと。
3. 提出物の期限は必ず守ること。

V. 定期試験

中堅理系大学レベルの問題を 8 割、難関理系大学レベルの問題を 2 割出題する。

1 学期 中間試験 : 複素数平面, 数学 I A

1 学期 期末試験 : 数学 II

2 学期 期末試験 : 基礎学到達度テスト, 数学 I A II

VI. 評価の方法

定期試験, 小テスト, 提出物の提出状況と内容, 授業の取り組み方などを総合的に評価する。

VII. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	【数学C】 3章 複素数平面	定期試験 小テスト 提出物	- 複素数 $z=a+bi$ の実部虚部を理解して、平面上で点やベクトルとして表現できる。 - 複素数を極形式 $z=r(\cos \theta + i\sin \theta)$ で表すことができる。 - 絶対値 z と偏角 θ の意味を理解できる。 - 複素数の加減乗法を計算できる。 - 乗法が回転や拡大縮小を表すことを理解できる。 - 複素数を用いて、円や直線などの図形を表現できる。
	5	【数学I】 1章 数と式、 2章 集合と命題 3章 2次関数		
	6	4章 図形と計量 5章 データの分析		
	7	【数学A】 1章 場合の数と確率 2章 図形の性質 3章 整数の性質		
		【数学II】 1章 式と証明 2章 複素数と方程式 3章 図形と方程式 4章 三角関数 5章 指数関数・対数関数 6章 微分法・積分法		
二学期	9	基礎学力到達度テスト対策 数学IAII演習	定期試験 小テスト 提出物	- 過去問題を使用して、各々正答率を上げる。過去問題で8割以上得点できる。 - 大学入学後を見据え、高校数学だけでなくいろいろな数学の問題に取り組み、知識の幅を広げる。 - キートレーニングを利用し、難関私大、大学入学共通テストを意識し、時間配分を考えながら問題に取り組むことができる。
	10			
	11			
	12			

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。